

未来への伝承



裏側

表側

皿の裏に書かれた文字と番号

— 統制磁器のはなし —

写真の皿は、中央一丁目の水戸地方裁判所土浦支部脇から出土したものです。表面には桜に錨のマークと「霞ヶ浦海軍航空廠」の文字がありますので、右から阿見町の辺りに昭和16(1941)年に創立された第一海軍航空廠で使うために作られた磁器であることが分かります。ところで、この皿の裏側、高台の内側には、写真のような図案化された文字と数字が描かれていました。この文字がある場所とは、現代の陶磁器でも会社名などが書いてある場所なので、この文字や数字も作った会社と関係があることは想像がつきます。さて、この文字と番号は何を表しているのでしょうか。

昭和12(1937)年から始まった中国との長引く戦争は、次第に人々の生活にも影を落としていきます。政府は、戦争遂行に必要な物資を確保し併せて戦争に直接関係のない部門に重要資材が使用されるのを抑制するために、いろいろな物資の流通に統制を加えるようになりました。また、戦火の拡大に伴って物資の不足が目立ってきたことから、国内経済にはインフレが進行しました。そこで政府は、昭和14(1939)年に価格等統制令を出し、公定価格の制定による物価の統制に乗り出します。陶磁器生産については、昭和15年に日本陶磁器連合会が政府より委任を受けて、生活用陶磁器について地方別の臨時公定価格を作成し、それをもとに昭和16年から各地域で結成されている陶磁器工業組合が器種と等級に分けた陶磁器の生産統制を

開始します。このときに全国各地の陶磁器工業組合が、生産・流通状況を分かりやすくするために、それぞれの組合の地域名称一文字と、傘下の各製陶業者に対して付した個別番号を生産する商品に付けることにしたのが今回の皿の裏に描かれていたものなのです。この図案化された「岐」の文字は岐阜県東濃地区の岐阜県陶磁器工業組合連合会に所属する7つの陶磁器工業組合が採用していたものであり、1065という番号からは、その中の岐阜県土岐郡瑞浪町(瑞浪市)の瑞浪陶磁器工業組合に所属する製陶業者がつくった製品であることも分かりました。

このように今回発見された焼き物の裏に書かれていた文字と番号は、戦時下における陶磁器の生産統制のために付けられたものであることが分かりました。このような文字・番号が付けられた磁器を「統制磁器」と呼んでいます。この生産統制は終戦とともに意味を持たなくなったため、元の会社のマークに戻っていきます。

小さな皿の裏にも、大きな歴史の一部が見えています。今回紹介した資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場に8月末まで展示しています。ぜひご覧ください。

■ 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 ☎ 826・7111